



金融教育の現場レポート



新潟県立三条商業高等学校 市川 操教諭

医療保険制度をテーマに
商業科の知識を
英語科で発展させる

金物生産が盛んな職人の町・新潟県三条市にある三条商業高校は、393名の生徒が在籍（2023年度）し、今年度に創立113周年を迎えた県内屈指の歴史と伝統を誇る専門高校です。「本校の特色あるカリキュラムとして、2年生から『近隣国探究』という授業があります。第二外国語を韓国語、中国語、ロシア語から一つ選択し、語学だけでなくその国の文化や習慣を学びます」。

2020年度より金融教育研究校の委嘱を受け、研究主任の市川先生が担当教科「コミュニケーション英語Ⅱ（以下、英語科）」の授業を中心に、2年生を対象として金融教育の実践に取り組みました。一連の実践授業の方法について、市川先生はこう説明します。

「生徒たちが将来自立した生活を営む際に、お金で困らない知識や技術が身に付く機会にしたいと考えました。そのため、日々の生活に密接に関係するテーマを設けて、商業科で学んだ知識を英語科で発展させる、教科連携的な実践を試みることにしました」。

商業科と連携した英語科による金融教育

日本と諸外国の医療保険制度を比較して 社会の仕組みを学ぶ

今回は、新潟県立三条商業高等学校（以下、三条商業高校）で英語科を担当する市川操教諭（以下、市川先生）が、2020年度に2年生を対象に取り組み、「注1」第19回金融教育に関する実践報告コンクール」で特賞を受賞した実践授業を紹介します。生徒たちが商業科で学んだ知識を土台に、英語科で「日本と諸外国の医療保険制度の比較」をテーマとして金融教育を行った市川先生に、実践の特色や学習成果などについてお話をうかがいました。



注1 https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/concours_kyoin/2022/pdf/22kyoin001.pdf (知能情報メディアチーム)



市川 操教諭

市川先生は商業科の先生とも綿密に打ち合わせをし、医療保険制度に関する実践活動を行うことにしました。

「英語の教科書で、ブータンの医療費が取り上げられていたんです。生徒たちは1年生の商業科目で、税金や社会保険の仕組みなど基礎的な知識を学習しています。その知識を土台にして英語科の視点で医療保険制度を学習すれば、おもしろい金融教育の活動になると思いました」。

アメリカの高額医療を教材に 生徒の興味関心を高めた

市川先生は指導計画のねらいを「国民皆保険制度の仕組みと、その利点や問題点を知る」、「日本で国民皆保険制

度を維持するために、生徒自身が今できることを考える」の二つとしました。指導計画を作成するうえで、生徒に興味や関心をどう持たせるかが大きな課題でした。

「医療保険制度は生徒にとって、かなり難しい分野です。身近で具体性があり、疑問を喚起して主体的な活動を促す教材が必要と考え、アメリカの高額医療をテーマにしたドキュメンタリー映画を視聴させました。同じ先進国でありながら日本とはかなり異なる

る医療保険制度を持ち、自己破産の一番の理由が高額な医療費であるという実態は、生徒たちの興味や関心を高めて、そこから発展させた活動につなげていけると期待したからです。ただし、アメリカ批判に終わらないよう、十分配慮しました」。

視聴した生徒たちはインパクトのある内容に大きなショックを受け、医療保険制度への興味・関心が高まるとともに、多くの疑問を持ちました。

「授業実践の導入として大成功でし

た。『国民皆保険制度がある日本に生まれてよかった』、『この問題は国民全体の意識を変えることが必要』など、生徒一人ひとりが思いや考えを持った貴重な時間になりました」。

アメリカ人大学生に 英文で質問する体験活動を実施

映画の視聴後、諸外国の医療保険制度について、書籍やインターネットを活用した調べ学習を進めていくうちに、生徒たちからアメリカの医療保険制度についてもっと調べたいという声が上がりました。そこで市川先生がアメリカ人に英文で質問することを提案すると、生徒たちは疑問点を洗い出して英語に訳し、メールでアメリカ人大学生に送りました。

「私が留学していたオレゴン州の大学に、今回取り組んでいる金融教育活動の内容や趣旨を説明したところ、アメリカ人大学生16人が協力してくれることになりました。英語の苦手な生徒が多く、かなり苦戦していましたが、『今の医療保険制度に満足している？』、『病气やけがをしないように、ふだんの生活で何に気を付けている？』といった疑問を懸命に英文にしようとする、いつもの授業では見られない姿が印象的でした」。

アメリカ人大学生からはわかりや

すい英語で、質問に対する回答の書面や動画が届き、生徒たちは四苦八苦しながら翻訳しました。

「アメリカ人大学生は自分自身や家族の経験に触れながら、自国の医療保険制度についての考えや憤りを伝えてくれました。年齢が近い当事者の生の声で現実を知ることができたのは、単なる教科書の知識ではなく、実践的な知識として理解を深める大変有意義な経験になったと実感しています」。

研究発表会への出場や 専門家の講演等で学びを発展

これまでの学習活動で、諸外国の医療保険制度や日本の国民皆保険制度をある程度理解したので、市川先生はその学びを発展させる取組みをいくつか試みました。とくに、県内の商業高校の研究発表会に出場したことが印象深いです、市川先生は言います。

「有志の生徒たちが夏休みを返上して、パワーポイントを上手に使い発表資料を作成したり、頭を悩ませながら台本を書き入念に練習を繰り返す姿を見て、『こんなことができるの！』という新たな発見に感動しました」。

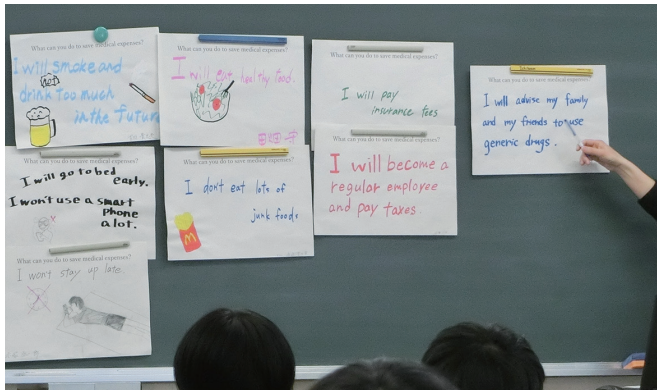
また、新潟大学の中国人留学生から中国の医療保険制度について話を聞いた、民間保険会社の専門家を招



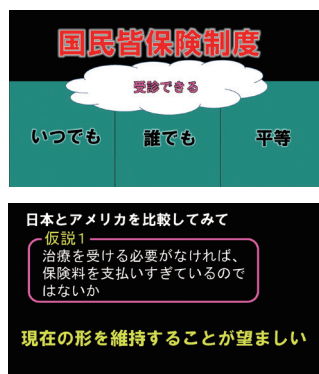
生徒たちの質問に対するアメリカ人大学生からの回答動画を視聴。必要な医療ケアを受けられない人が多くいるアメリカの現状を生々の声で聞き、生徒たちはさまざまな思いを抱いた



民間保険会社の専門家をお願いして講演を実施。「年金制度など社会保障まで話が広がったけれど、事前に学習知識があったので自分事としてとらえて真剣に聞いていました」



医療費を節約するために、自分たちが今できることを生徒同士で話し合った。英語の活動ということで各自が自分の考えを英文で表現して、お互いに発表する機会をつくった



商業高校の研究発表会に「～日本と諸外国の医療保険制度の比較から～今、私たちが考え、実践すべきこと」をテーマに出場。市川先生は「発表を聞いていて、感動で鳥肌が立ちました！」

き、医療保険制度や年金制度などについて講演してもらいました。

そして今回のテーマのまとめ学習として、日本の医療保険制度の現状における問題点とその原因を探る取り組みを実施しました。

「これまでの学習でこの制度のありがたみを学んだ生徒たちは、国民皆保険制度を守っていく必要性を痛切に感じたようです」。

制度を守るためには、医療費削減が重要な対策だとわかると、生徒同士で自分たちが今できることを話し合い、自分の考えを英文で発表しました。

「『早寝早起きと適度な運動をする』、『健康診断をしっかりと受ける』など、特別な考えではないですが、一連の学習から生徒たちが心から感じて表現していることがわかりました」。

医療保険制度に関する実践活動が終わった後、市川先生はロングホームルームの時間に「自立のためのお金」の基礎知識を伝えました。

「3年生になる前に、奨学金の仕組みや求人票の見方、自分が生まれてから今までにかかった金額や一人暮らしの生活費など、基本的な金融リテラシーを持ってもらいたいと考えました。『親のありがたみを感じた』、『ローンの怖さがわかった』という生徒もいて、大きな意義を持つ学習になったと思います」。

ます」。

**実践して気づいた
金融教育の発展に必要なこと**

金融教育の実践が終わると、生徒に金融教育についてのアンケートを実施しました。

「私はこの実践が、生徒たちにとって自分の将来設計を真剣に考える小さなきっかけとなったら成功と考えていました。『国民皆保険制度が維持できるようにしっかりと働いて社会に貢献したい』、『知っておく役に立つことばかりなので自分でも調べたい』といったアンケート内容を見て、目標はおおかた達成できたと感じています」。

金融教育の実践を初めて経験した市川先生は、金融教育の大きな可能性を感じたと言います。

「金融教育はどの教科でもどんな方法でも、自由な発想で実践できると実感しました。金融教育の題材は、毎日の生活の中にたくさん落ちていきます。教員がそれを見逃さずに自分の教科とからめていければ、この分野はもっとと発展できるし、教科の学習効果も飛躍的に上がるのではないのでしょうか。常にアンテナを張り、生徒も私も興味を持って楽しめるテーマを見つけて、生徒たちの生きる力をこれからも育てていきたいと思っています」。

卒業生対談

金融教育の学習を通じた 学びから得たものとは？

今回の金融教育の授業を受け、研究発表会に出場した井上さんと丸山さんが、地元の大学生になって市川先生と久しぶりのご対面。授業の感想や学びによって変化したことなどをうかがいました。同じく市川先生から金融教育を受け、今は地元を離れて一人暮らしをしている卒業生からのコメントも紹介します。



金融教育の印象とは

市川 今日は金融教育を体験した感想など、本音を聞かせてください(笑)。まずは授業を受ける前、金融教育にどんな印象を持っていた？

井上 知識として絶対学習したほうがよいと思ってました。商業科目にも通じる内容だし。

丸山 まず頭に浮かんだのは「投資」でしたね。だからテーマが保険と聞いて「保険も金融なんだ」と思いました。

市川 そんな金融教育を英語科で学ぶことになったわけだけど、「英語で金融？」という生徒もいたし。

井上 僕もそう思いました。「英語で保険？ 保険が世界の金融の場面で

どう扱われるのかとか？」みたいな。

市川 私自身もまだどんな風に授業をしようか、考え中だったから(笑)。

丸山 日本語で勉強しても難しくそのなかに「英語でやるの？ 何を？」という感じで、ちょっと不安でした。

市川 専門外の分野だったから、私もかなり悩みました。「金融の勉強をしておくに役に立つから、一緒にやろうー」とみんなに言って、自分を奮奮させた覚えがあります(笑)。

一番印象に残った学習は ドキュメンタリー映画の鑑賞

市川 1年間でいろいろな金融教育の活動を行ったけど、一番印象に残った学習は何？

井上 ドキュメンタリー映画ですね。

丸山 僕もそうです。強烈でした！

市川 やっぱり！ 鑑賞中のみんなの反応を見て「心をつかんだ！ 大成功！」と思ったんだよね。

丸山 ガッツリつかまれました(笑)。医療費が高いことは聞いていたけど、生活ができないくらい現在の現状を知って、日本のありがたさを感じました。

市川 アメリカでは救急車を呼ぶのにお金がかかるなんて知らなかった。日本では考えられないことばかりで、文化の違いを痛切に感じました。

経済科学部1年 丸山拓海さん



井上 アメリカでは救急車を呼ぶのにお金がかかるなんて知らなかった。日本では考えられないことばかりで、文化の違いを痛切に感じました。

市川 映画を見た後、アメリカの医療保険制度についてアメリカ人大学生と英文でやり取りをしたことは？

井上 その制度の中で暮らしている人から、具体的な問題や苦しみを聞いて切実さを実感しました。

丸山 リアルな分、映画より衝撃が大きかったなあ。

市川 みんな英語も苦労してたね。

井上 難しかった！ でも深いテーマで海外の人とコミュニケーションを取れたことは、大きな自信になりました。

丸山 英文作成も翻訳もうまくできなかったけど、交流できた感覚を味わえたことは大きな経験でした。

市川 ロングホームルームで、自分が生まれてからかったお金を計算



経営情報学部1年 井上卓哉さん

したり、一人暮らしにかかる生活費を学んだけど、何か感じた？

丸山 大学生になったら一人暮らしをしたかったです。でも、この学習で現実的に難しいとわかった。自分が望む生活することも大切だけど、無謀にそれを実現させるのは違うなって。

井上 県外に進学を考えていたけど、この学習で、親にあまり負担をかけたくないと思って県内にしました。こうした考えを自分で選択できたことは、大きな成長だと思う。

市川 2人とも金融リテラシーがかなり上がったね。授業をしたかいがありました！

研究発表会の活動で新しい自分を発見した

市川 2人は有志で研究発表会に出場してくれたけど、夏休みに学校に来て一生懸命調べたり資料を作った

り、本当に頑張ってくれました！

井上 発表することで、医療保険制度の難しさとか奥深さを学び直した感じでした。これまで学んだことが全部発表に集約されたような。

丸山 パワーポイントを使ったり、資料の構成や内容のバランスを考えたりって、社会に出てからきつと必要なことだと思う。それを高2で経験できたので貴重な時間でした。

市川 私にとっても大きな経験になりました。ふだん見えないみんなの姿を見て「こんなことができるの！」って。いつも新しい発見があったし。

井上 僕も新しい自分に気づいたことが結構ありました。ワンステップ上がったような気がします。

市川 ほかのテーマで出場しても得

たものはあったと思うけど、金融のテーマだからこそ得たものがあると思う。

丸山 調べれば調べるほど興味が湧いてくるテーマでした。

金融教育の学びによる自分の変化

市川 さまざまな金融教育の活動を行ったけど、考え方が変わったり、今の生活に何かつながったことはある？

井上 昔から歯の治療をしていて、18歳になったら医療費が倍近くに！でも子どもの医療費助成制度を学んでいたから、それほど驚かずにすみました。

市川 制度を知っていたから、その

ありがたさを実感できたってことだね。

丸山 保険制度について学んだので、保険をちゃんと考えるようにしています。大学生協の保険に入るとき、この保障は今はいらないとか。学んでなかったら何も考えずに、スタンダードプランとかを選んでいたらかも。

市川 いろいろ話を聞いて、2人とも自分の人生を切り開いていく力を付けたなって、とても感動しました！それは知識だけでなく、自分の価値観が育っているからだと思います。生きる力になる金融教育はさまざま分野につながっていて、自由度が高い学びです。これからも生きる力になる学びをたくさん経験してください。

一人暮らしを始めた卒業生の声

情報学部1年 栗山冬輝さん

金融教育は中学でも受けていたので、「何回も行うということは重要なのだろう。少しでも頭に入れておこう」と考えて授業を受けました。印象的だったのは、アメリカの医療制度をテーマにした映画です。通院するたびに、自分たちがどれだけ恵まれているかを考えるようになりました。また、生活設計と家計管理を学んだことで、生活するうちにどれくらい費用がかかるのかわかってきて、少しずつ家計管理ができるようになりました。

商学部1年 小林蒼空さん

授業を受ける前は難しそうだなと思い、正直あまり進んで学ぶ気になりませんでしたが、海外の医療保険にまつわる映画に衝撃を受けて興味を持ちました。日本の制度の良さや問題点を学習したことで、この制度を持続させるためにふだんから健康に気を付けて生活しようと考えようになりました。一人暮らしをするようになり、お金の収支に目を配って生活を考えるようになったことも、この学習のおかげだと思います。